

新しい文化を 築いた人たち

当先人顕彰館は、鹿角にゆかりの深い先人に関する

資料の発掘収集・保存、事跡の調査研究と公開展示をしております。

世界的な東洋史学者「内藤湖南」、

十和田湖の開発に尽力をした「和井内貞行」の

両氏をメインに常設展示し、

さらに各界の先覚者を順に展示紹介しております。

真澄研究者 内田武志・ハチ兄妹とゆかりの人びと

H31.4～R元.9



鹿角市先人顕彰館

〒018-5334 秋田県鹿角市十和田毛馬内字柏崎3番地2
TEL 0186-35-5250

先人顕彰シリーズの展示

ふるさとの豊かな文化の礎と、すぐれた先人の遺徳を偲ぶ…

◆第1次展示 H2.7～H3.6

杉山万喜蔵 地域医療に貢献 小田島樹人 気品に富んだ作曲家
関直右衛門 鹿角の観光に新時代を築いた 阿部藤助 郷土の興隆に生涯を捧げた

◆第2次展示 H3.7～H4.6

小田島由義 郡長として殖産農業に尽くした 浅井小魚 俳人・大湯環状列石発見者
田村徳治 日本行政学の創設者 大里武八郎 名著「鹿角方言考」の著者
渡部繁雄 地域農業の近代化を促進

◆第3次展示 H4.7～H5.7

阿部恭助 鶴山日記「阿津免草」の著者 立山弟四郎 郷土の産業と教育に貢献
川村竹治 育英会を創立した司法大臣 謙訪富多 地域産業文化の発展に貢献

◆第4次展示 H5.8～H6.7

田中北嶺 「戊辰戦役図絵」を描く 坂田祐 関東学院設立と教育に献身
大里周蔵 町政に尽力した文化医師 栗山文次郎 かづの古代薬、紫根染の大業
高杉重右衛門 地方行政農事に寄与・歌人

◆第5次展示 H6.8～H7.9

浅利佐助 醤油醸造業の基礎を築いた 宮城佐次郎 教育と地方自治に貢献
伊藤良三 教育と町政に尽くす 立山林平 将来を嘱望された天才数学者
阿部貞一 農村電化と観光事業の先覚者

◆第6次展示 H7.10～H8.9

児玉高慶 (1888～1929) 武道を奨励し青少年を指導 (花輪)
阿部六郎 (1893～1974) 郷土文化の向上に貢献 (花輪)

◆第7次展示 H9.10～H10.9

内田武志 (1909～1980) 民俗学と菅原真澄の研究 (八幡平)
豊口鋭太郎 (1873～1952) 秋田県の教育振興に貢献 (毛馬内)
種市靈山 (1882～1945) スケールの大きい気骨の書家 (毛馬内)

◆第8次展示 H11.11～H12.10

高橋克三 (1888～1984) 湖南研究と地域先人の顕彰に尽力 (毛馬内)

◆第9次展示 H12.11～H13.11

黒沢隆朝 (1895～1987) 音楽教育と音楽起源の研究 (花輪)
大里健治 (1898～1978) 音楽、郷土芸能の振興に寄与 (毛馬内)

◆第10次展示 H13.12～H14.11

石田収蔵 (1879～1940) 北方民族研究の草分け (花輪)

◆第11次展示 H14.12～H15.11

石川伍一 (1866～1894) 国益に殉じた生涯 (毛馬内)

◆第12次展示 H15.12～H16.11

小松五平 (1891～1972) 鳴子旧系こけしを継承した名工 (大湯)
川村薰 (1897～1976) 果樹指導と郷土新聞の草分け (花輪)

◆第13次展示 H16.12～H17.11

相川善一郎 (1893～1986) 彫塑・彫刻など文化活動に貢献 (花輪)
馬淵テフ子 (1911～1985) 空駆けた女流飛行家 (八幡平)

◆第14次展示 H17.12～H18.11

川口月嶺 (1811～1871) 盛岡藩を代表する絵師 (花輪)
泉澤織太 (1777～1840)・牧太 (1778～1855)・恭助 (1806～1870) 学者の家系 (毛馬内)

◆第15次展示 H18.12～H19.11

佐藤要之助 (1859～1892)・良太郎 (1878～1912) 鹿角りんごの謹 良雄 (1906～1977) チェロ奏者 (花輪)

◆第16次展示 H19.12～H20.11

小田島艸千 (1882～1969) 花輪俳諺会を創立 (花輪)
鎌田露山 (1891～1966) 毛馬内俳句会を設立 (毛馬内)

◆第17次展示 H20.12～H21.11

山先青山家の人々 山先川口家の人々 (尾去沢)

◆第18次展示 H21.12～H22.11

瀬川清子 (1895～1984) 女性民俗学の開拓者 (毛馬内)

◆第19次展示 H23.3～H24.3

先人顕彰回顧展 浅利佐助他パネル展示

◆第20次展示 H24.10～H25.3

和井内貞行「没後90年展」 十和田湖開発の父 (毛馬内)

◆第21次展示 H25.6～H25.12

柴田春光 (1901～1935) 才能をうたわれた若き画家 (毛馬内)

◆第22次展示 H26.8～H27.6

内藤湖南「没後80年展」 東洋史学の開拓者 (毛馬内)

◆第23次展示 H27.6～H28.3

畠山文象遺墨展 書道の発展に寄与 (毛馬内)

◆第24次展示 H28.4～H29.3

内藤湖南「生誕150年展」 東洋史学の開拓者 (毛馬内)

◆第25次展示 H29.4～H30.3

岩館知義 (1925～2016) 松岡隆一 (1924～2016) (大湯)(花輪)

◆第26次展示 H30.4～H31.3

戊辰戦争の中の鹿角～150年の時を超えて～ 田中北嶺「戊辰戦役図絵」

◆第27次展示 H31.4～R元.9

真澄研究者 内田武志・ハチ兄妹とゆかりの人びと

真澄研究者 内田武志・ハチ兄妹
とゆかりの人びと

血友病という重い病気を抱え、ベッドに横たわりながら菅江真澄の研究に情熱を注いだ鹿角出身の内田武志。その強靭な才能を戦前は方言研究に、戦後は真澄を世に知らしめ、江戸時代の生活・風俗を伝えるという大きな功績を残しました。また、妹のハチは武志を支え、生物学の分野から真澄の記録の科学性を追求しました。

先人顕彰館では、平成9年10月～平成10年9月に内田武志の功績について取り上げ展示を行っていますが、今年が武志の生誕110年の節目にあたることから、今回は内田武志・ハチ兄妹を中心に、二人にゆかりある人びとにスポットを当て紹介します。

内田 ハチ
(1913～1998)

1. 兄武志の手足となって支えたハチ
秋田から大館の栗盛家まで汽車で通い、
真澄隨筆文を写しとり兄に届けた
2. 理科教育者としてのハチ
秋田大学では恙虫病の研究と北海道の
「ヌベ」の研究
3. 盲教育者としてのハチと武志
「みちびきの会」を通し須藤春代と出会
う

蒲原 有明
(1875～1952)

「草わかば」など象徴詩人であり、武志が静岡商業学校生の時知り合い、柳田国男を紹介する

柳田 国男
(1875～1962)

日本民俗学の創始者、日本昔話を編集した際
武志の鹿角昔話五編を採用した、以後武志に
菅江真澄の研究を指導した

渋沢 敬三
(1896～1963)

若い頃から日本常民文化研究所を設立し民俗
学を掘り下げ、武志に秋田に行ったら菅江真澄を研究せよと勧めた

伊藤 良三
(1883～1964)

昭和20年毛馬内の高橋家に疎開していた武志

宮本 常一
(1907～1981)

に秋田叢書別集菅江真澄集を贈り励ました

須藤 春代
(1934～2016)

渋沢敬三の食客となり柳田国男の民俗学を徹底して掘り下げ追求した。菅江真澄遊覧記全5巻では武志が現代語訳、宮本が注釈を担当、その後二人は菅江真澄全集全12巻別巻1を編集した

盲学生だった春代に武志とハチは詩を勧め「春の大地」を出版した。春代はロマンローランの「ジャンクリストフ」の点字訳本を完成した。その縁でロマンローランの奥さんから手紙、写真、カップ、スカーフが贈られた

民俗学と菅江真澄の研究者

Takeshi Uchida

内田 武志

うちだ たけし

1909-1980 (尾去沢)



本名は武。昭和5年「民俗学」に“年中行事・鹿角郡宮川村地方”を初めて発表。昭和11年、「鹿角方言集」を刊行。

20年鹿角の毛馬内に疎開してから菅江真澄研究に没頭。21年柳田国男・渋沢敬三の賛助を得て「菅江真澄研究会」を設立した。編著書に「菅江真澄遊覧記」「菅江真澄全集」(全12巻別巻1・宮本常一との共編・訳)があり、真澄研究の第一人者である。

武志が病床に伏したまま研究を続けられたのは、妹・ハチの献身的援助の功績が大きい。29年ハチと共に秋田市文化章、42年県の文化功労章、50年柳田国男賞を受賞した。

略歴 a brief personal record

明治42年(1909) 尾去沢鉱山内田修三の二男に生まれ、父の勤務地、碇電所社宅に住んだ。

大正12年(1923) 鎌倉に転居するが関東大震災で家が全壊し、1年後に静岡へ移転した。
静岡商業学校に入學し、発病し退学した。この頃、詩人の蒲原有明と知り合い、柳田国男・渋沢敬三の指導を得て民俗学の研究を続けた。

昭和20年(1945) 戦争激化により、母方の親戚鹿角郡毛馬内の高橋家に疎開。毛馬内町長の伊藤良三と出会い、真澄研究に弾みをつけた。

昭和21年(1946) 妹ハチと秋田市に転居し、菅江真澄研究会を設立。後、真澄研究の集大成ともいわれる難事業「菅江真澄全集」を出版した。55年死去・享年71歳。